

トリセツのすすめ

風間浦村立風間浦中学校 1年 五十洲 ひなた

「十万円って、すごいよね。もらったら、何に使う？」

今、世界中を大混乱の渦に巻きこんでいる『新型コロナウイルス感染症』。日本でも各地で感染が報告され、ある日突然学校が、臨時休校になった。小学校生活最後の日は、保護者だけの卒業式という淋しい形で終わりを迎えた。日本中が、不安に包まれていた。幸い私の学校は、どうにか授業が再開されたが、社会的には外出自粛、休業要請などによる悪影響が広がっていた。

そんな中、国は経済対策として、日本に住む全ての人に一律十万円の支給を決定した。誰でも一人十万円というところに公平性を感じたが、同時に、年齢制限もなく受け取れることに、とても驚いた。中学生に十万円なんて、信じられない。けれど、根が単純な私は十万円という金額に、いろいろな妄想が頭の中をかけ巡った。(ディズニーランドに行こうか、美味しい物を食べようか、いや、やっぱり貯金しておこうか。)と、億万長者気取りで心が浮かれた。しかし、つらいニュースを見る度に、そんな気分は薄れていった。

私は今まで「税」について、全く関心を持ったことがない。知っていたのは、買い物をする時に払う消費税ぐらいだ。授業では、私たちが毎日、学校に通えること、教科書、机やイス、教材などのほとんどが、税金で支えられていることを学んだ。他にも救急車や警察、道路や橋、ごみの処理など、私たちが安全で快適に生活できるために税金が使われている。それだけではない。税金は給付金という形で、使われていることが分かった。私も受けとった「特別定額給付金」だ。この給付金は、納税者が一生懸命働いて納めてくれた大切な税金であり、それによって苦しんでいる人、困っている人の支援につながると考えたら、とても素晴らしいことだと思った。私は初めて、税の大切さやありがたみを感じた。すると、その大切なお金を安易にもらってよいのかという気持ちがわきあがってきた。私のように、お楽しみ目的で使おうと考えた人も、きっといるはずだ。では、どうしたら納得のいく使い方ができるだろうか。

私は、以前から考えていたことを実行したいと思っている。貧困に陥っている外国の子どもたちに、六年間お世話になったランドセルを送りたいのだ。姉に相談すると、自分のランドセルもそうしようと賛成してくれた。また、自然災害に見舞われた人に役立ててもらえるように、ささやかでも募金をしてはどうかと、家族で話し合った。こうして、我が家の「取扱説明書」(トリセツ)ができた。

新型コロナウイルスの感染拡大は止まらず、さらに深刻化している。災害もいつやってくるか予測できないものだ。そんな今だからこそ、みんなで支え、助け合うことのできる税の制度に関心を持ち、もっと真剣に考えていきたいと思う。